

平成28年度 学校評価総括表 伊丹市立昆陽里小学校

教育目標		命輝き 笑顔輝く 昆陽里小学校 ー心豊かにたくましく生きぬく力を育てるー					
重点目標		①一人ひとりを生かし、確かな学力の定着を図る学校 ②学習する意欲や豊かな心を育む環境が整備された学校 ③地域と密接に結びついた開かれた学校					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・漢字の書き取りや語彙力、計算力をつける。 ・学校で統一したテキストを使用し、視写・音読の力をつける。 ・日々の家庭学習で音読を行う。 ・算数・国語の年度末統一テストを作り、経年比較を行う。 ・校内研修として、全学年が年1回以上授業を公開する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語(週2回)・算数(週2回)の復習の時間をとる。 ・年度初めと年度末に視写のテストを実施し、年度末の方が多くの文字を正確に書けるようにする。 ・音読の基本を身につける。 ・全学年が年1回以上授業を公開する。 ・児童アンケートにおいて、「先生は、教え方をいろいろ工夫している」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童アンケートにおいて、「授業はわかりやすい」と回答した割合が85%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生以上を対象に行った算数の基礎学力チェックテストで、計算領域において平均正答率8割以上という結果になった。 ・全学年が、1回以上公開授業を実施した。国語を柱とした校内研究を行い、事後研修会を通して、授業の質を高め合った。 ・児童アンケートにおいて、「先生は、教え方をいろいろ工夫している」と回答した割合が、94.3%になった。 ・児童アンケートにおいて「授業はわかりやすい」と回答した割合が、91.9%になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校時表を一部変更し、朝学習の時間を学校で統一して10分間確保すると共に、内容を充実させる。 ・金曜日の放課後、個別指導を継続して行う。 ・書くことを通して、自分の意見を整理したり、友達の意見を聞いてまとめたりする活動を取り入れた授業づくりに努める。 ・より一層、ひとりひとりがわかる授業づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力テストを実施し、結果が数値化され、他の学年児童の理解度がわかることはよいことだと思う。 ・放課後学習、復習タイム、復習ウィークを設定し、個別指導をすることは続けてほしい。 ・遅刻者は、朝学習や授業に参加していないので、勉強がわからなくなる。朝起きたら登校する。朝学習で勉強するなどの習慣をつけることは大切。先生は大変ですが家庭と連携して指導してください。 ・子どもたちに授業の目当てを具体的に知らせる。理解させたいポイントをはっきりイメージして授業を進めてほしい。
	学習習慣の定着と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を充実させ、家庭学習の定着を図る。 ・読書活動を充実させ、表現力・創造力の豊かな子どもを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習がんばりカードの見直しを行う。 ・家庭学習がんばりカードを活用し、どの子も机に向かう習慣を身につけさせる。 ・朝学習の時間に週1回読書の時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で目安の時間(低学年30分・中学年60分・高学年90分)を目指して学習に取り組ませる。 ・集中して10分間読書に取り組ませる 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年は88%の児童が、目安の時間を目指して学習できているが、中学年は74%、高学年73%にとどまっている。 ・全学年、週1回の読書タイムで集中して読書に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習がんばりカードを活用していく。 ・家庭に協力を要請。 ・高学年の家庭学習を検討。 ・図書室の部屋の確保(2部屋) ・児童の興味・関心を引き出すような図書の選定に努める。

豊かな心・健やかな体	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の教育」を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会による朝のあいさつ運動を行う。 ・月々の生活目標を学校朝礼で確認し、学級に掲示する。 ・人権学習を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて、「あいさつをしている」とすべての児童が回答できるよう日々取り組みを行う。 ・毎月の目標を行動にうつせるようにする。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて、「あいさつをしている」と回答した割合が、94.2%と前年度を上回った。 ・「生活目標を守れている」と回答した割合が、前年度より高くなった。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が、95.9%になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童会を中心とした、あいさつ運動の継続やあいさつ強化週間の導入。 ・来校者や地域の方へのあいさつの仕方を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、友達同士で挨拶をする。そして、マナーとしての挨拶を指導していく。簡単なようだけれども難しいことです。昨年度よりよい結果でよかったです。 ・スマホの所持率が70%を超え、無料通話アプリを介した仲間はずれ等は見つけにくくなっている。周りにいる大人が危機感を持つ。使用時の約束を子どもたちに守らせていくなど、家庭の協力が必要。
	健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる。 ・児童の健康の保持・増 	<ul style="list-style-type: none"> ・業間の外遊びを奨励する。 ・こやリンピックをクラスで取り組める内容にすることで、参加の啓発を行う。 ・廊下や階段の右側通行やポリュームゼロを推進する。 ・歯磨きカレンダーを活用して歯磨きの習慣をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回長縄大会を実施する。 ・年1回ドッジボール大会を実施する。 ・こやリンピックを行う。 ・学校内での怪我の人数の減少させる。 ・より多くの子が歯磨きを実施するよう声掛けを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・長縄大会、ドッジボール大会に、各学級の目標達成へ向けて取り組んだ。 ・こやリンピックは、低・中・高学年全ての学年の参加が多くなった。 ・怪我による保健室利用が、前年度より大幅に減少した。 ・手洗い場の数が少なく、歯磨きに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して続けていく。 ・手洗い場の増設を継続して要望していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下階段の右側通行はすばらしいことです。社会でも役立ちます。 ・場に応じた行動ができてきたこと、怪我が大幅に減ったことはよいことだ。
開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学校情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりを月1回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを毎日1回更新し、学校情報を積極的に発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校だより、学年だよりを月1回以上発行する。 ・学校ホームページを毎日1回更新する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上、発行することができた。 ・毎日1回の更新をすることで、1日平均100人の閲覧があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も学校だよりの発行、学校ホームページの更新を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にはスマホやパソコンを所持しない方もおられるので、学校だよりがペーパーで大助かりです。 ・ホームページは毎日100人～120人の閲覧があり今後も続けてほしい。
	学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・学習環境の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃週間等を活用しながら、清掃指導の徹底を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・教育活動に必要な教室を確保す 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が93.9%になった。 ・教育活動に必要な教室が不足している(少人数学習・生活指導・図書室・体育時の着替え・英語学習・生活科) 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内で清掃指導の研修を実施し、トイレの清掃道具を改善・購入していく。児童への清掃指導を行っていく。 ・清掃週間を活用する。 ・児童くらの校舎外設置を市に継続して要望していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数が数年後には減り、空き教室も出てくるという市の見通しだが図書室、着替えをする部屋がないことは子どもたちも先生方も大変だと思う。学校ができる工夫にも限界があります。苦しさは伝わります。

	地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の公開、参観授業等を実施し、地域との交流を深める。 ・県民まちなみ事業や、苗圃を活用する会とのかかわりを保護者とともにもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～4・6年生による米作り体験活動を地域の協力を得て継続的に実施する。 ・運動会に地域参加プログラムを設ける。 ・花壇の花々の植え替えや水やりを保護者とともに定期的に行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者の協力を得て、実施できた。 ・教職員が、地域行事に積極的に参加し、交流できた。 ・園芸委員会の児童も参加して行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、地区会などで情報を発信していく。 ・ウィンターフェスティバル、オープンスクールなど、行事を公開し、より一層連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭りや米作りの代掻き、田植え、稲刈り、案山子づくりで成果を上げ、学習にも表現されている。 ・県民まちなみ事業を受けて、園芸ボランティアの保護者と園芸委員会が花壇の水やり、植え替えをしている。いつもきれいに整備されていて気持ちよい。 ・若い先生方を中心に地域行事に積極的に参加していただいている。
保護者との連携	保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の公開、懇談会、参観授業を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との相互理解を深める。 ・PTA学力向上委員会と連携し、学習習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の授業参観、年1回のオープンスクールを実施する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。 ・月1回、PTA運営委員会において家庭教育について啓発する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の授業参観(学校行事を含む)を実施した。土曜日にオープンスクール(2月)を実施することで、父親の参観数が多くなった。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が93.7%になった。 ・毎月のPTA学力向上委員会で、啓発した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日程などを考慮して、保護者がより多く学校に足を運ぶ機会を作り、より一層の連携を図る。 ・今後も保護者の願いに応えるために、教職員が協力して、取り組んでいく。 ・PTA学力向上委員会と連携を深め、家庭での学習習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの安全、健全な育ちには、学校、保護者、保護者、地域の連携は不可欠。 ・参観日だけでなく、懇談会の持ち方を工夫し参加者を募り、情報を発信し交流することで保護者の意識を変えていってほしい。 ・今後も、保護者と連携して生活リズムを見直し、子どもたちの学習習慣を身につけさせていくことで学力も向上すると思う。

学校関係者評価総括

子どもたちの貧困が社会問題になっている。学習できる環境を整備し、学校、家庭、地域が連携し子ども達の健全な育成を目指していきたい。
 子どもたちは、友達同士で教え合い活動することで学習意欲が高まっていく。よい友だちづくりについて、懇談会等で啓発することで保護者の意識が変わり、子どもたちの学力アップにも繋がると思う。学校は保護者に懇談会等に参加してもらうための工夫をし、保護者は子どもたちの健全な成長のためと意識を変え、誘い合って参加することからはじめていってほしい。
 学校、家庭、地域が連携して行っている行事は、時間や労力が必要だが、子どもたちの成長によい影響を与えていると考え、今後も進めていきたい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ・基礎基本の定着を図り、わかる授業づくりに努める。
- ・家庭と連携して、児童の生活リズムを見直し、学習習慣を身につけさせる。
- ・児童会活動を中心としたあいさつ運動の継続。
- ・廊下階段での右側通行、ボリュームゼロの推進で健康で基本的な生活習慣を育む。
- ・こやリンピックなど外遊びをとおしての体力作りの推進。
- ・学校だより、ホームページ、学年・学級通信で学校の情報発信を積極的に行う。
- ・学校、家庭、地域が連携し児童の健全な育成を目指す。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標通りに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った